

家電、トイレで「異変」キャッチ

お年寄り見守ります

離れた家族に自動メール

一人で住むお年寄りの安否は、離れて住む子や親族には心配の種。そこで、ガスや家電製品などの使用状況を日々、メールで受け取ることで、それとなく安否を見守ることができサービスが広がっている。

(経済部 山岸肇)

◆高齢者見守りサービスの例

サービス・商品名(事業者)	特徴	料金
みまも〜る (東京ガス)	高齢者宅のガスの使用状況を、1日最大2回まで、家族の携帯電話にメール送信する	加入料5250円+月額987円
あんしん テレちゃん (NTTテレコム)	液化石油ガス(LPガス)利用者宅のガスの使用状況を、家族の携帯電話にメール送信する	初期費用2万4150円+月額829円もしくは1039円*ガス設備状況により異なる
みまもりほっと ライン IPOT (象印マホービン)	ポットはレンタル式で特別な工事は不要。外出を知らせる「おでかけ」ボタン付き	契約料5250円+月額3150円
安否確認 サービス (アートデータ)	全12種類のセンサーから選べる。1か月のセンサー反応日時をまとめた報告書も郵送	入会金8400円+月額1050円+機器レンタル月額(トイレマットセンサーの場合3675円)

電子機器を使った高齢者向けサービスなどを行うアートデータ(本社・東京)は、高齢者宅に設置したセンサーの反応回数、設定した範囲よりも多かったり少なかったりすると、希望の通知先へメールが送信されるサービスを実施している。

例えば、トイレにセンサー付きのマットを敷いて、独居のお年寄りがトイレに行った回数が分かるようにしておく。回数が普段より飛び抜けて多かったり、ゼロになったりした場合、病気など何らかの事態が発生している可能性がある。別居する子どもなどがメールでいち早くそれに気づくことが出来る。

同社では、睡眠時の異常

も分かるように、呼吸数などを感知する寝具マットも用意している。小林明夫社長は、「緊急時に本人がSOSを出すことは難しい。周囲が生活リズムの変化に気付くことが大事です」と強調する。

一方、象印マホービンでは、無線通信機を内蔵したポットから、使用状況をメールで送信するサービスを行っている。定期的にお茶を飲む習慣のある高齢者が、急にポットを使わなくなったら緊急事態かもしれない。メールで異変に気がつき、自宅で一人倒れていた母親が一命を取り留めた事例もあるという。

NTTドコモのお年寄り向け携帯電話「らくらくホン ベーシックII」は、歩数計機能が付いていて、1日の歩数記録を、指定した相手に自動でメール送信することもできる。離れて暮らす親の見守りにも使えるだろう。

主な「見守りサービス」とその料金などを表にまとめた。